

現在の景気：県内景気は、コロナ禍による落ち込みからの持ち直しの動きが続いている。製造業では、輸出が中国向けを中心に底入れし、生産が上向いている。非製造業では、感染再拡大で百貨店売上が伸び悩んでいるほか、外食・娯楽なども回復が遅れているが、自動車販売は盛り返している。建設需要は、ホテルなどでの先行き懸念が高まっているが、足許の工事量は高水準を維持している。これまでの県内景気牽引要因、すなわち、①建設や食品製造業などの企業業績堅調、②交通インフラ整備関連などの豊富な官民プロジェクト、③災害復旧・復興工事需要、などに大きな変化はなく、先行きはコロナ禍からの回復軌道を辿るとみられるが、感染の終息時期が見通せないことから、依然として不透明感が強い。

3 か月程度の見通し：引き続き持ち直しの動きが続くが、持ち直しのペースは、海外でのワクチン接種状況や国内での感染状況などによって上下両方向に振れ得る。

個人消費：①回復基調。②10 月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は前年同月比 5.8%増加し、13 か月ぶりに前年を上回った。消費増税や自然災害の影響で落ち込んだ前年の反動で、高額品などを中心にプラスに転じた（前々年との比較では 14.4%減）。11 月は新型コロナウイルスの感染拡大で客足が再び遠のいている模様。11 月の自動車販売台数は同 3.6%増加し、2 か月連続で前年を上回った。一般乗用車（同 3.8%増）、軽乗用車（同 3.2%増）ともに増加した。

住宅建築：①減少。②10 月の新設住宅着工戸数は、前年同月比 4.3%減少し、5 か月連続で前年を下回った。貸家（同 3.7%増）、持家（同 1.3%増）は増加したが、分譲（同 20.1%減）は減少した。

設備投資：①減少。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、10 月の工事床面積（年度累計）は前年同期比 1.9%減少したが、工事予定額は同 2.1%増加した。千葉経済センターによる県内企業 222 社アンケート調査（9 月実施）では、20 年度の設備投資計画は 19 年度実績額を 1.5%下回り、期初から 2.1%下方修正された。

公共工事：①増加。②10 月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同期比 8.1%増加した。県（同 12.4%減）は減少したが、独立行政法人（同 22.6%増）、市町村（同 10.9%増）、国（同 8.5%増）は前年を上回った。

輸出：①底入れ。②10 月の成田、千葉、木更津 3 港合計通関輸出額は、前年同月比 2.8%増と 2 か月連続で増加した。成田空港では、中国向け半導体等製造装置（同 42.4%増）や非鉄金属（同 30.2%増）などの増加により、同 4.9%増と 2 か月連続で前年を上回った。千葉港は、石油製品（同 82.2%減）の減少により、同 23.5%減と 6 か月連続で前年を下回った。木更津港は、鉄鋼（同 38.7%減）の減少により、同 18.0%減と 7 か月連続で前年を下回った。

生産活動：①上向き。②9 月の県鉱工業生産指数（季調済）は、89.3 と 2 か月ぶりに上昇した。食料品工業（前月比 3.2%低下）は低下したが、鉄鋼業（同 4.2%上昇）、化学工業（同 2.4%上昇）などが上昇した。

観光：①回復基調。②政府や県による需要喚起策の効果もあって、11 月 3 連休の主要観光地の入り込みは堅調で、東京ドイツ村では、連休中日（22 日）の入園者数が開園以来の過去最多を記録した。一方、感染急拡大や「GoTo トラベル」の見直しなどを受けて、宿泊施設では年末年始の予約をキャンセルする動きが出始めている。

雇用情勢：①下げ止まり。②10 月の有効求人倍率（季調値）は、0.86 倍（前月比 0.01 ポイント上昇）と 2 か月連続で前月を上回った。求人数（同 2.3%増）の伸びが求職者数（同 0.7%増）を上回った。

【トピックス】

- ・千葉県は、新型コロナウイルス対策として総額 1,417 億円にのぼる 20 年度一般会計補正予算案を発表した（11 月 13 日）。インフルエンザとの同時流行に備えた医療体制の整備や、経営が厳しい中小企業に対する支援金の増額などを盛り込んだ。
- ・新型コロナウイルス感染者数の拡大を受け、千葉県は「Go To イート」の食事券の新規発行を停止した（11 月 28 日～12 月 18 日）。30 日には、県北西部 11 市の飲食店に対し、22 時以降の酒類提供を控えるよう要請した（12 月 2 日～22 日）。